

成長への道

2025. 9. 4

今、世の中には、安易な成功論が氾濫している。本屋さんに行くと、成功の秘訣、成功の条件、成功の方程式といった本が所狭しと並んでいる。ついつい読んでしまいがちである。だが、購入することはない。

ここで語られるのは、社会通念としての成功であろう。他人よりもお金を儲けること、出世すること、有名になること、それが成功であると信じ込み、競争に駆り立てられる。逆に、誰にでも優しく接する人になることを人生の成功とする成功論はないだろう。

社会通念での成功には落とし穴がある。競争社会での勝者となることを成功と定義する。多くの人々が、その成功を求めて競争する。しかし、一握りの勝者しかその成功を得られない結果となる。敗者は、深い敗北感と無力感を味わうことになる。

人生においては、こうした敗北だけでなく、失敗や挫折が必ず待ち構えている。多くの成功論には、努力すれば必ず成功すると書いてある。だが、どれほど努力しても、失敗し、挫折することもある。それが、人生の真実である。

安易な成功論に染まってしまうと、実際に敗北や失敗、挫折に直面したときに、自分を支えることができなくなる。大切なことは、安易な成功を夢見て成功の秘訣や法則を学ぶことではなく、敗北や挫折に直面したとき、自らを支える考え方や思想をもっていることだろう。

人生において、成功は約束されてはいない。しかし、成長は約束されている。どのような敗北や失敗、挫折に直面しようとも、人間は必ずそれを糧として成長していくことができる。もし、人生の成功を定義するとしたら、命ある限り成長していくこととなるだろうか。

どんな苦労や困難があっても、決してそのことから逃げることなく、いつも真摯に自分の人生に向き合う。いつも一生懸命に生きる。そうすれば、自ずと成長はついてくる。苦労や困難の多い人生を、人はなぜ精一杯に生きるのか。人は、何のために一生懸命働くのか。人それぞれ答えは違ってくるかもしれない。だが、多く人は、自分を成長させたい、世の中に貢献したい、人の役に立ちたいと考えているのではなかろうか。

完璧な人間などいない。誰もが、人間としての未熟さを抱えながら成長の道を歩み続けている。親だからといって、子どもの前で完璧である必要はない。未熟な一人の人間として、成長を求め、一生懸命に生きる姿を見せることが重要である。

成功は大切である。成長は、それ以上にかげがえのないものである。そのことを肝に銘じ、一步一步前に進むことが求められている。